



ぼくと茶そば

静岡県浜松市立
積志小学校・3年
鈴木 涼介

ぼくがはじめて茶そばを食べたのは、4年前です。さいしよは「お茶」ではなく「茶色」だと思っていました。食べに行こうと言われともイヤでした。弟も同じでした。なぜぼくが茶そばと出会ったのかと言うと、ママのおねえちゃんが東京屋というおそば屋さんのおすこつけっこんしたからです。ぼくのおじさんになりました。今、ぼくが茶そばが大すきなわけは、そばが見えなくなるぐらいノリがのっているからです。ママのそばにはちよつとだけ、ぼくと弟のは大もり。イヤだなと思っているぼくたちのためにおそばやさんが大もりのノリをのけてくれて、ぼくたちはとてもうれしかったです。東京屋はおそばだけではありません。さしみもさんまもうなぎも何でもあります。おそばがでてくる前におなかいっぱいになりそうです。

ぼくはそばが大好きです。でもツルツルつとそばを食べれません。パパやママも弟もごうかいにツルツルつとそばを食べます。ちよつとくやしけれど、ぼくはぼくの食べ方です。だつてツルツルつと食べられなくてもそばは、おいしいのです。

ぼくには一度やってみたいスパシャルコースがあります。東京屋のとなりにあるボーリング場があります。じょうれんさんは、ボーリングであせをながしたあとに東京屋でおひるを食べながらビールをのみます。ぼくも、思うぞんぶんボーリングをしてからそばを食べコーラをググツとのんでみたいです。いつか茶そばでわんこそば大会をしたいです。

小学生奨励賞